

# なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ 五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第1回

## 二つの感謝

穏やかに晴れた四月二十一日（日）の九時過ぎ。

へ今から二つの感謝の気持ちをかみしめに行く！

急遽そう決めた私は、あわてて車に乗り込みつくば市をあとにした。

行く先は旧行方小。

ドラマ「季節のない街」——。原作の小説と、企画・脚本・監督の宮藤官九郎さんの作品は以前からのファンで、お気に入りの俳優さんばかりが出演しているのだから、私の大好きが束になったような作品だ。四月からの地上波テレビ放送を見たなら、期待どおりのサイコウの内容。そして、ほかでもない、行方市がロケ地になってくれたことに、感謝の念が沸いたのだった。

もう一つの感謝は、行方市内で昼前に流れる時報チャイムのメロディがオリジナル曲「行方市のうた」であったこと。編集担当の（海）さんが四月十八日におしえてくれた。二七六か所に設置された防災無線柱から、市内にいる人たちに毎日欠かさずさりげなく「ここは行方です」と伝えてくれているのだ。この春に玉造のお墓に入った

両親（母がつくば市、父が土浦市で最期を迎えた）にも。

十一時半のチャイムを旧行方小で聴くという計画。時間的に余裕のよっちゃん（表現、古い！）のはずだった。しかし途中で交通規制に遭遇。かすみがうらマラソンの日だった……。

大渋滞の六号を少しづつ進んでいるうちに「計画通り」にこだわる必要はまったくないと思えてきて、三五五号沿いの眺めを味わいながら走り、結局、セブンイレブン玉造バイパス店の駐車場でチャイムを聴いた。ちゃんといつもの音色だった。

そのあと訪ねた聖地・旧行方小（外観と周辺）を堪能し、コテラスにも寄って帰路についた。干し芋をかみしめながら。

### 小林 光恵さん

詩人・平田俊子さんのXの更新を毎日楽しみにしています。



行方市出身。つくば市在住。著述業。元看護師。中学時代は軟式テニス部。5月に新刊小説「ナイチンゲール7世」を出版しました。

市公式ホームページ内で「行方帰省メン」連載中。

サイトはこちらから▶



## 地域おこし

### 協力隊

連載コラム①

地域おこし協力隊の田沼絢子です。協力隊として行方市に移住して、今年で丸4年を迎えます。移住した2020年は、新型コロナウイルスが猛威を振るう中でした。平日は、麻生庁舎へ出勤しますが、仕事を終え帰宅すると、聞こえてくるのはカエルの鳴き声。テレビから聞こえるニュースは、コロナのニュースばかり。コロナ前からは想像できないほど、社会情勢のさまざまな変化。そして何より自分自身、知らない土地での生活は「孤独」との戦いでした。

あれから4年。コロナも終息に向かいつつあり、地域の皆さんとの会話や鹿行地域でのさまざまな活動をする中で、日に日に行方市のとりこになりました。今は行方市に定住するために、協力隊として、そして一人の市民として何を求められているのか、私に何ができるのか、を模索しながら活動を行っています。昨年、鹿行地域で活動する地域おこし協力隊の仲間たちと「NPO法人鹿行地域おこしLab.」を立



▲田沼 絢子 隊員

【令和2年7月1日～現職】なめテレの普及活動や次世代情報発信を担当。鹿行地域おこし協力隊の連携にも力を入れている。

ち上げました。この法人は、鹿行地域内にある豊富な資源や人材を活用しながら、関連5市の行政圏を越えた広域連携・相互扶助による地域おこし事業を企画・運営し、鹿行地域の魅力の増加増進を図ることによって、発展に寄与することを目的として設立しました。昨年は、鹿行地域内にとどまらず、東京などでもイベントを開催しました。今年もさまざまな活動を行っていく予定です。

今後このコラムで、協力隊の活動やNPOでの活動をお知らせしていきたいと思っています。

（次号は、佐藤晶が担当します。）



NPO 法人鹿行地域おこしLab. 発足キックオフイベント（イバラキセンズ / 東京・銀座）2023年5月開催